

「光からの光」

まことの神からのまことの神

(ヨハネ8・12)

一、はじめに

ニカイア信条の文言を、順を追って見ていきますが、きょう取り上げるところは「光からの光、まことの神からのまことの神」です。この切り取りだけを聞きますと、何のことなのかさっぱり分かりませんが、何のこともありません。この文言は、御子イエス・キリストについて語られている信仰告白としての言葉です。すなわち、「御子イエス・キリストは『光からの光、まことの神からのまことの神』なるお方です」と言い表し、神をほめたたえることを目指した文言です。

二、光について

現代人が「光」と聞いたなら、何を思うでしょうか。「明るいこと」「光線」でしょうか。理工系の方であるなら、「光は電磁波であり、粒子としての性格を持つている」と思われることでありましょう。では、聖書の世界で「光」は何と捉えられているのでしょうか。それは「人間が目にする光」であると同時に、「神からの光」として、ある箇所では区別されずに、ある箇所では区別されて語られているように見えます。たとえば、創世記1章1節より3節に書かれ

ている言葉です。〈神は仰せられた。「光があれ。」すると光があった。神は光を見て良しとされた。神は光とやみとを区別された。神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕があり、朝があった。第一日。〉とあります。ここで語られている「光」は、何を指すのでしょうか。明るさであり、光線であり、暗闇を消し去る光でありましょう。ですが、太陽という、神の被造物から発せられる光ではないようです。と言いますのは、創世記に記されている順序に拠れば、神が「光があれ」と語られた時、まだ太陽は造られていなかったからです。その後、16節で〈神は二つの大きな光る物を造られた。大きいほうの光る物には昼をつかさどらせ、小さいほうの光る物には夜をつかさどらせ。〉と語られています。〈大きいほうの光る物〉とは太陽ですが、イスラエル以外の古代人にとって「太陽」は「神」でしたから、創世記は「大きい光る物」と表現しています。そうしますと、「光」は太陽に拠らない、神が造られた光であって、明るさをもたらす光であり、またすべての人を照らす光でもありました。この二つは区別されています。それは、暗闇についても言えます。暗闇とは単に明かりがなくて暗いことではなく、神に背を向けることによって生じる暗闇の世界が含まれます。

では、「光」について、もう少し聖書

から考えてみましょう。聖書に書かれている言葉に拠れば、光は、しばしば神が私たちを照らす光です。例えば、民数記6章25節に書かれています、結婚式の式文でも引用される祝福の言葉ですが、〈主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。〉とあります。モーセが語った祝福の言葉です。〈主が御顔をあなたに照ら〉すのは、主なる神が御顔を私たちに照らされるからです。あるいは、詩篇27篇1節に〈主は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。〉とあります。〈私の光〉と〈私の救い〉は並行法ですから、主なる神がもたらす〈光〉とは、すなわち〈救い〉のことであると知ります。

そして、きょうの聖書箇所です。ヨハネの福音書8章12節です。〈イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。〉とあります。ここで語られている「光」も、目に見える光と言うより、神の光です。暗闇を照らす光です。暗闇に打ち勝つ光です。その光を、イエス・キリストを信じて従う者が持つと語られています。そういうわけで、私たちキリストを信じる者が持つている光は、神の次元の光です。

三、光からの光

まことの神からのまことの神

それでは、きょう取り上げるニカイア信条の文言を見てまいりましょう。

〈光からの光、まことの神からのまことの神〉です。不思議な表現であり、不思議な言葉です。ですが、ニカイア信条が語ろうとしていることは、すなわち教会が告白しようとしていることは、すでに分かりかと思えます。御子イエス・キリストが神御自身であるとする告白です。〈光からの光〉とは、「光から出た光」の意味です。神は光なるお方です。

ヨハネの手紙第一1章5節に、〈神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。〉と証言されています。その、光なる神から出た、光なるお方がイエス・キリストであるという意味の文言です。すなわち、御子イエス・キリストは神の光そのものなるお方です。

次に、〈まことの神からのまことの神〉ですが、これも「まことの神から出たまことの神」の意味です。御子イエス・キリストは初めからまことの神であられました。天地が造られる前から、すなわち、時間・空間・物質・命が造られる前から、まことの神であられました。初めから、御父より生まれられた御子であられました。ですから御子イエス・キリストはまことの神です。御子は、父である神との区別はあるものの、おひとりなる神です。